

ケブカツルカコソウ

Ajuga shikotanensis Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。草地性の植物で、愛知県の里山を特徴づける植物の一つであるが、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。花茎は単生して直立し、高さ 10~30cm、基部から葉をつけた長い走出枝を出す。根出葉は広倒披針形~倒卵形、長さ 2~5cm、先端は鈍頭、辺縁は少数の波状の鋸歯があり、基部はくさび状に細まって葉柄となる。茎葉は対生し、1~2 対、その上に 5~10 対の苞が続き、腋に仮輪をつくって淡紫色の花をつける。花期は 5~6 月、花冠は唇形、花筒は背面で長さ約 7mm、上唇はごく小さく、下唇は 3 裂して開出する。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：25 豊田北西部（畑佐武司 1907, 2001-5-26）、27 みよし（芹沢 61316, 1992-5-22）。尾：37b 尾張旭（村松正雄 21216, 2002-4-28）、39a 東郷（浜島育子 310, 1995-5-18）、39b 豊明（浅野守彦 2003, 2005-5-7）、47 小牧（日比野修 4732, 1999-5-2）、48 春日井（山田果与乃 793, 2002-5-6）。38a 長久手（長湫, 芹沢 61305, 1992-5-22）、50 名古屋北部（守山区下志段味, 鳥居ちゑ子 621, 1994-5-8）にもあったが絶滅した。他の場所でも既に絶滅している可能性があり、そのため集団数階級が 3 と評価されている。32a 刈谷（井ヶ谷町, 大原準之助 s.n., 1958-5-23）、51 名古屋南東部（有松, 井波一雄 s.n., 1941-5-6, CBM 251395）で採集された標本もある。

【国内の分布】

種としては南千島（色丹島）と本州に分布する。

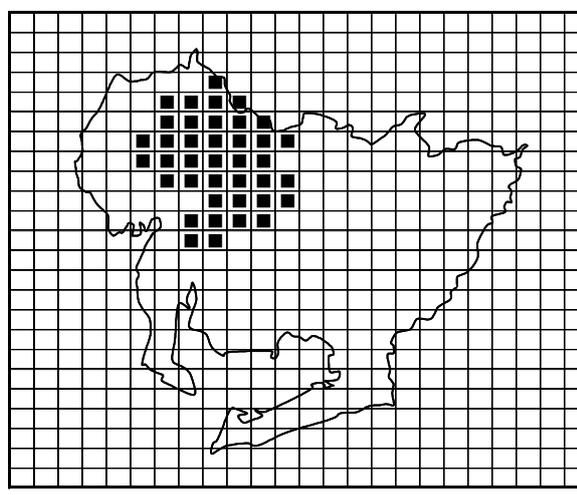
【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県では、丘陵地の水田のまわりの土手、草の生えた農道など、一昔前の谷戸田景観を象徴するような場所に生育している植物である。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

尾張東部と、それに接した西三河西部の丘陵地に点在しているが、都市近郊なので、一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で谷戸田の放棄による植生遷移の進行により、急激に減少している。名古屋市では、耕地整理により生育地が削られ絶滅し、長久手市や東郷町でも宅地化により生育地が破壊された。水田の周辺にあるため除草剤が散布されることも多く、小牧ではその影響で個体数が激減した。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、本種以外にも多くの絶滅危惧植物が生育しており、生物多様性を保全する上で重要性の高い場所である。谷戸田とそこでの農薬を使用しない水稲耕作の価値を、一つの文化遺産として認める必要がある。

【特記事項】

基準品種のツルカコソウ form. *shikotanensis* は全体に毛が少ないもので、愛知県には自生しない。カコソウは夏枯草の意味で、ウツボグサのことである。

【関連文献】

保草本 I p.189, 平草本 III p.73, 平新版 5 p.109, SOS 旧版 p.76, SOS 新版 p.82,84.